

第五次猪名川町総合計画後期基本計画(素案)に対する
パブリックコメント及び町の考え方

意見募集期間:平成26年7月29日～8月28日

意見提出者数:2人

提出意見数:14件

■第五次猪名川町総合計画後期基本計画(素案)について提出された意見の概要と町の考え方

番号	意見提出者	区分	頁	章	大分類	中分類	小分類	該当箇所	意見の概要	意見に対する考え方(対応)
1	1	策定方法	-	-	-	-		検証・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 前期基本計画の検証・評価結果が分からない。町民が見られるような体制にしていきたい。 	<p>前期基本計画の検証・評価結果は、計画素案の18ページから概要を掲載していますが、猪名川町総合計画審議会には検討資料として、より詳細が把握できる資料を提出しております。審議会の検討資料は、今後、ホームページ等での公表を検討します。</p>
2	1	策定方法	-	-	-	-		今後の取組方法	<ul style="list-style-type: none"> 町政は広範囲に及ぶため、従来通り網羅的に進めては将来必要な改革は難しく、世の中の流れから遅れ、過疎化が進むことが予想される。 改革を実施するには、重点主義と町長主導による遂行体制の具体策が必要。 重点主義の進め方として、①町長が任期中に実施したい重点5項目を決める。②各部門長が町長の考えも踏まえた重点3項目を決める。③各重点項目について、プロジェクトチームを立ち上げる。④各重点項目につき、進捗の評価項目を決め、各年度のマイルストーンを決める。 重点テーマは、猪名川町の資源(遊休地、森林資源、農業資源等)を活用するアイデアを固め、町内外から賛同者を見つけ、交渉を進める。(情報の収集力や実行力、熱意が必要) 	<p>町政は、採算性や効率性だけでなく、行政の責務として実施しなければならない施策・事業もあるため、総合計画には網羅的な側面もあります。</p> <p>今回の後期基本計画には、計画素案の33ページから後期基本計画における5つの重点テーマを設定し、分野横断的に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>重点テーマの推進方法については、ご提案いただいたご意見を参考とさせていただきます。</p>
3	1	計画	56	2	6	2	②	環境問題への取り組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの地産地消を進め、町で消費する化石燃料や電気の購入費を10億円以上抑制し、子ども支援に当て、100人以上の雇用の創出につなげる。 町有地や町主導で活用できる遊休地を活用し、太陽光発電を進める。 新建材である集積材工場を誘致し、発生する木くずを活用してペレット発電をする。 	<p>エネルギーの地産地消の推進については、全国的に関心が高まってきており、その施策の一つに太陽光発電がありますが、本町では民間主導での動きも見られるものの、景観を含めて配慮が必要という意見もあることから、今後の課題と認識しております。</p> <p>ペレットの活用については、ペレットストーブの普及促進等小規模の活用は進めていますが、ご意見のようなエネルギーとしての活用には至っていないことから、今後、町に適したエネルギーの導入について検討を進めてまいります。</p>

番号	意見提出者	区分	頁	章	大分類	中分類	小分類	該当箇所	意見の概要	意見に対する考え方(対応)
4	1	計画	116	5	26	3	②	地域資源を活かした魅力づくりとネットワーク化	<ul style="list-style-type: none"> ダチョウを町の観光資源として活用するため、ダチョウ牧場を誘致する。 	<p>ダチョウの活用については、今後個別施策を進める上で、ご提案いただいたご意見を参考とさせていただきます。</p> <p>新たな観光資源の発掘は必要と考えることから、ご意見を踏まえ、116 頁取組内容②「地域資源を活かした魅力づくりとネットワーク化」の記載内容を以下のように変更します。</p> <p>『〇「点」のスポットを「線」でつなぐことで地域資源のネットワーク化を図り、さらなる地域の魅力を引き出します。』</p> <p>→</p> <p>『〇「点」のスポットを「線」でつなぐことで地域資源のネットワーク化を図るとともに、新たな地域資源を発掘するための情報収集・情報発信に努め、さらなる地域の魅力を引き出します。』</p>
5	2	策定方法	—	—	—	—	—	検証・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 後期基本計画は、5年前から変化した前提条件や進捗状況がおもわしくなかった点がある場合に関連する部分を見直し、今後の5年間の方針を定めるものであり、町を取り巻く環境条件の変化や前回の計画で定めた点がどれだけ進捗したか、進捗しなかった点があるなら、その原因は何かを考察し、新たな計画を定めるべき。 素案には十分記載されていないが、審議会や担当部局内では検討されたはずであり、それを明記して町民に知らせることで、総合計画に対する町民の理解も深まり、協力も得られるのではないかと。 	<p>前提条件の変化については、14 ページからの「第3章 社会潮流の変化と猪名川町の現状」に基本的な事項についてまとめています。また、進捗状況については、前期基本計画の検証・評価結果として、計画素案の18 ページから概要を掲載しています。前期基本計画の検証・評価結果の詳細については、猪名川町総合計画審議会における検討資料として、審議会に提出しております。審議会の検討資料は、今後、ホームページ等での公表を検討します。</p>
6	2	序論	18	4	—	—	—	検証・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 評価区分結果総括表のAからEの根拠が具体的に示されていないため、評価が妥当かどうか判断することができない。各項目の経年変化を示すべき。 A評価が少なすぎる。なぜ少ないのか理由を明確にした上で後期基本計画を策定すべき。 	<p>評価・検証は、庁内各課による自己評価を行った後、総合計画策定担当部署である企画財政課を中心に、ヒアリング調査を実施し、施策の進捗状況から18 ページ中ほどの「各区分の基準」に基づき、判定しました。ヒアリング調査時には、前期基本計画に記載した内容を「実施したかどうか」、「その成果があったかどうか」を聞き取り、必要に応じ、自己評価からの修正を行いました。</p> <p>行政の施策・事業は、すべてが定量的に成果を把握できるものではないため、前期計画に記載したことに取り組んでいるか、その結果として、住民の生活環境が向上したかという視点での評価を行っています。A評価が少ない理由については、「取り組んだものの明確な成果が見えにくい」という施策が多かったためであり、後期基本計画では、この反省を踏まえ、主要施策ごとに課題と方針と取組内容を整理するとともに、チャレンジ指標についても、前期基本計画よりも細かい単位で設定することで、次回の評価・検証がしやすいように工夫しました。</p>

番号	意見提出者	区分	頁	章	大分類	中分類	小分類	該当箇所	意見の概要	意見に対する考え方(対応)
7	2	序論	26	5	1	1	—	まちづくりアンケート	<ul style="list-style-type: none"> 満足度、重要度、5年前との比較の平均値が示されているが、評定尺度が説明されていないため、結果を把握しづらい。 	<p>まちづくりアンケート結果からの主な意見については、アンケート報告書から抜粋して作成しているため、説明部分を省略していましたが、計画書のみを見た場合でも理解できるよう、ご指摘の通り、どのような方法で算出したかの説明を追加します。</p>
8	2	序論	27	5	1	1	—	まちづくりアンケート	<ul style="list-style-type: none"> 満足度、重要度、5年前との比較のグラフの縦軸、横軸の目盛が異なっているため、誤解を招く恐れがある。 5年前との比較は、平均値が3点台前半であり、「変化なし」というのが住民の評価であるため、そのことを明記し、それに基づく計画を検討すべき。 	<p>満足度、重要度、5年前との比較の数値による分析については、数値自体の大小も重要ですが、各分野間の評価の差を分析する視点もあり、平均点で4象限に分類し、優先順位を検討する基礎資料として活用しています。</p> <p>また、5年前との比較における平均値から、「変化なし」という住民の皆さまの評価に関しては、これまでの町の取り組みにより、変化を実感できていない、または、変化していることが周知されていないということが課題として表れていると捉えていますので、今後、個別施策を実施した際に適切な形で周知していきます。</p>
9	2	序論	27	5	1	2	—	まちづくりアンケート	<ul style="list-style-type: none"> 住み続けたい理由はあるが、住み続けたくない理由は掲載されていない。住み続けたくない理由に改善していくためのヒントがあるのではないか。 	<p>「他市町に移り住みたい理由」という設問の結果を追記しました。なお、「住み続けたい」、「他市町に移り住みたい」という回答者数に差があるため、それぞれの理由については、回答者全員に対する割合に変更しました。</p>
10	2	計画	39	—	—	—	—	チャレンジ指標	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ指標は、今回の現状と目標だけでなく、5年前の数値(5年前の現状)を示さないと5年間の改善状況が分からないため、後期基本計画に盛り込まれた目標値の実現可能性も評価できない。 素案には、結果に関する指標しか示されていないが、結果をもたらす手段に関する指標も示さないと、計画の妥当性を判断することはできない。 	<p>チャレンジ指標については、前期基本計画の検証を行った上で新たに設定したものも多くあるとともに、後期基本計画における目標という位置付けであるため、過去にさかのぼった記載はしておりません。</p> <p>また、結果をもたらす手段に関する指標については、この基本計画に基づき定める実施計画を進める上で、目標値等を設定し進行管理を行います。</p>
11	2	計画	39	—	—	—	—	チャレンジ指標	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ指標の幾つかの項目については、課題や施策内容の整合性が低いように思われる。 一つの課題に対して、一つの指標で測定することは困難であり適切ではないか。できる限り複数の指標を設定すべきではないか。 	<p>チャレンジ指標については、各施策の進捗を測る基準として設定した主な指標であり、代表的なものを選んで記載しており、評価を行う際には、他の指標も併せて総合的に判断します。数値で測るのが困難な施策もありますが、できる限り適切な指標を設定できるよう、総合計画策定審議会での意見を踏まえて設定いたしました。</p>

番号	意見提出者	区分	頁	章	大分類	中分類	小分類	該当箇所	意見の概要	意見に対する考え方(対応)
12	2	計画	67	2	10	3	—	良好な住環境づくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ指標「耐震化した住宅件数」は、「耐震化した住宅軒数」もしくは「住宅の耐震化件数」ではないか。 	ご指摘の通り、「住宅の耐震化件数」に変更します。
13	2	計画	84	3	16	1	—	地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ指標「緊急通報装置設置数」は、設置率（設置件数÷一人暮らし高齢者数）とすべきではないか。 	緊急通報装置の設置については、一人暮らし高齢者などを対象としていますが、設置するかどうかは、本人や家族の了承が必要であるため、全体に対する設置率を目標とすることが困難であり、まずは理解を浸透していくことをめざし設置数を目標としました。
14	2	その他	—	—	—	—	—	まちづくりアンケートの実施方法	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりアンケートの回収率が36.2%と低すぎる。しかるべき配慮（調査票の工夫、実施方法など）をすれば、回収率を高めることができるのではないか。協力依頼状の内容、調査票のレイアウト、督促内容や回数、謝礼品の有無等のチェックが必要である。 5年前との比較については、満足度、重要度の経年比較で把握できるため、不要ではないか。 	<p>アンケートの回収率については、町政に関心を持っていただくことにより、アンケートに協力していただけるよう、総合計画だけでなく、全般的な情報提供、周知・啓発に力を入れたいと考えています。なお、今回得られた回収数（1,086件）は、アンケート調査等において、調査結果の信頼度を確保できる数（調査対象者数＝15歳以上の住民約27,000人の場合、1,027件）を上回っています。</p> <p>5年前との比較の項目については、「満足度は高いが、5年前と比べて変化を実感してない」「重要度は低いですが、5年前と比べると悪くなっている」など、分類して分析するために設定しています。</p>